

# 6月 作家紹介 池井戸 潤

## 《作家紹介》

1963年6月16日生まれ（53歳）岐阜県出身。慶応義塾大学文学部及び法学部を卒業。子供の頃から国内外のミステリーが好きで、特に江戸川乱歩賞。受賞作は必読していた。1988年三菱銀行（現・三菱東京UFJ銀行）に入行。1995年32歳の時、同行を退職しコンサルタント業のかたわら、ビジネス書のソフトの監修をしていたが、テーマが限られた仕事の将来に不安を感じ、作家の道へ。1998年「果つる底なき」で第44回江戸川乱歩賞を受賞して作家デビュー。2011年には「下町ロケット」で第45回直木賞を受賞。銀行や中小企業を舞台にしたテーマ、政治と若者の就職難など幅広いジャンルの作品を描いている人気作家。「民王」「下町ロケット」「花咲舞が黙ってない」「ようこそ、わが家へ」など、多くの作品がTVドラマ化されている。



### ロスジェネの逆襲

テレビドラマ化され、人気を博した半沢直樹シリーズの第3作目。主人公の半沢が東京中央銀行の子会社「東京セントラル証券」に出向した。IT企業の雄・電腦雑技集団社

長からライバルを買収したいと相談を受ける。

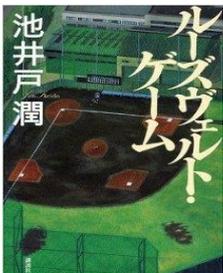
アドバイザーの座に就けば巨額の手数料が入るビックチャンスだった。ところが、そこに親会社である東京中央銀行から理不尽な横槍が入る。窮地に陥った半沢が部下の森山と共に周囲をあつといわせる秘策にでた。「借りは必ず返す。やられたら倍返しだ！」



### 下町ロケット2

小さな町工場の奮闘が日本中に夢と希望をもたらした。あれから5年…待望の続編です。量産を約束したはずの取引が試作品段階で打ち切られた。

そんなピンチの時、社長・佃航平の元にある医療開発依頼が持ち込まれる。「ガウディ」と呼ばれるその医療機器が完成すれば、多くの心臓病患者を救うことができるのだが、実用化までには長い時間と多大なコストがかかる為、中小企業である佃製作所にとっては、あまりにもリスクが大きい。地位や名誉に群がる人々の妨害が立ちふさがるなか、佃の新たな挑戦が始まった。



### ルーズヴェルト・ゲーム

この作品のタイトルは「点を取られたら取り返し8対7で決着する試合」を意味します。第32代アメリカ合衆国大統領のフランクリン

・ルーズベルトの「一番おもしろいゲームスコアは8対7だ」という言葉に由来しています。舞台は中堅精密機械メーカー・青島製作所。予期せぬ不況の波と同業他社との激しい攻防戦で、倒産寸前に追い込まれた会社を守り抜くため、男達は決して諦めない。奇跡の逆転につぐ逆転の物語。読み終わると、気持ちがスカッ！とします。



### 鉄の骨

中堅ゼネコンの一松組に入社して4年目の主人公・富島平太は、大学の建築学科を卒業し、畑違いの営業担当を命じられる。

「談合課」と呼ばれる部署であり、建設業界にとって談合は「必要悪」であることを知らされる。組織に殉じるか正義を信じるか。談合は根絶するべきか、社会の潤滑油として必要なのか…若き社員の葛藤が描かれている。ゼネコン業界のことが勉強になる本です。